

黒沢川清掃活動

第6支会 支会長 宮 寺 利 充

自治会第6支会と青少年対策小曾木地区委員会との共催で、黒沢川の手入れを実施しました。

この清掃活動は、昭和58年度から始まり今回で33回となる行事で、平成26年度は、8月3日（日）に「みんなの、みんなによる、みんなのための黒沢川清掃」をテーマに小曾木地区全域で実施しました。

また、この行事は、小・中学生が活動することにより、青少年が地域の一員として自覚と自立を育成することを目的の一つとしています。

【清掃区域】

- ・ 黒沢川および支流の小布市川周辺の清掃を行いました。

【参加者】

- ・ 自治会員 824人（招待者、役員含む）
- ・ 青少年対 159人（うち小学生107人）
- 計 983人



開 会 式

【清掃を終わって】

- ・ 不法投棄物が多い（金属・軍手・ビニール・タバコの吸い殻等）。年々大人と子供の連携がうまくいくようになった。子どもの「川を汚してはいけない。」という意識が高まった。



黒沢川清掃風景



子どもによる開会のことば

富岡地区住民参加による「ふれあいハイキング」

富岡自治協議会

富岡1丁目自治会長 石井博章

秋晴れの休日に、大人と子供と一緒に1日楽しもうというのが「ふれあいハイキング」です。富岡1丁目、富岡2丁目そして富岡3丁目の自治会からなる富岡自治協議会の住民ならだれでも参加できます。まず、富岡3丁目にあるグラウンドに時間を決めて集合し、3、4kmほど離れた山頂にある見晴らしの良い公園までハイキングをします。

目的地である公園は毎年自治会3役や体育委員などの役員で意見交換して決め、その公園までの距離を勘案して出発時間を決定します。昼食を公園でとるためです。



昼食後の自由時間に子供たちは公園にある遊具で遊び、大人たちは楽しい談笑のひと時を過ごします。そのあとは、輪投げゲームで得点を争い、ついで本日最大のイベント「ビンゴゲーム」に突入します。豪華賞品は参加者全員に当たるよう準備します。

ゲーム終了後はそれぞれ思い思いのルートで出発地である富岡3丁目のグラウンドを目指します。しかし途中帰宅しても良いことになっています。グラウンドに集まった人たちで解散式を行います。皆さん「今日はよく歩いたね」という満足感でいっぱいです。

飲み物や昼食を手配するために、事前に参加人数を明確にする必要がありますが、これは隣組長さんに手伝ってもらいます。昼食は何にするか、ゲームの賞品はどうするか、など役員が集まって智慧をだし合います。当日、体育委員は参加者、特に高齢者や子供たちの安全確保につとめます。リクレーション保険を掛けたり、体調をくずす人のために車を用意したり、と細かいことが数多くありますが、参加者全員の協力が得られるので安心できます。人とのふれあい、自然とのふれあいは元気の素になると同時に、青少年の健全育成の一助となるでしょう。この活動の経費は青少年対策小曾木地区委員会からの助成金で賄いますので、参加者の負担はありません。平成25年度は埼玉県飯能市の龍崖山公園に行きました。大変きれいで、広々とした公園です（写真は龍崖山公園からの眺め）。参加者はこども13名、大人43名でした。次もそこにしようという声も上がっています。少子高齢化で年々参加者が少なくなっていくのではと懸念されますが、お互いに声をかけあって盛り上げていきたいと考えています。

夜 間 防 災 訓 練

～ 平成26年8月31日(日)午後7時 ～

第6支会 支会長 宮 寺 利 充

第6支会では、最近の災害の発生状況などから、夜間の地震発生を想定した防災訓練を行いました。

午後6時50分に青梅市の防災行政無線で地域住民に訓練の周知を行い、7時に地震発生
の合図として、市民センターおよび消防自動車5台のサイレンを一斉に吹鳴して訓練を開始
しました。

市民センターには、第6支会の正副支会長、消防団正副分団長、まとい会支部長、交通安
全協会支部長、民生委員の代表者および市民センター職員が参集して自主防災組織連絡会の
本部を設置しました。

各家庭では、家族の安否や火の元の確認を行い、懐中電灯や非常持出品を持って指定の避
難場所へ避難を行い所要時間等の確認をしていただきました。

各避難場所では、避難してきた住民に対して地元消防団員が防災の基本は「自分の身は自
分で守る」ことや「住宅の耐震性・家具の転倒防止」、「家庭内備蓄」など、普段からの備え
が大切であることや、土砂災害に備えて、自分の住んでいる場所の地形についてハザードマ
ップで確認していただきたい旨の説明が行われました。

また、避難訓練に合わせて、市民センターの本部と避難場所との間で、無線を活用して避
難人員や被害状況などの情報を伝達する訓練を実施しました。

※ 訓練参加者等



地 区	対象自治会等	避 難 場 所 等	参加者
本 部	本 部 員	小曾木市民センター	11 人
第 1	富岡1・2・3丁目	富岡3丁目運動広場	95
第 2	小曾木3・4丁目	市民センターグラウンド	203
第 3	黒沢1・2・3丁目	黒沢中央運動広場	167
第 4	小曾木1・2・5丁目	小曾木2丁目運動広場	93
合 計			569

なお、第6支会では平成27年3月1日(日)に第七小学校と地域住民との合同で避難所
開設・運営訓練などを中心とした小曾木地区防災訓練を実施しました。

教 訓

- ・ 夜間の停電・大雨の際の避難行動は非常に難しい。
- ・ 普段から非常持出品の準備をしておくことが大切である。

《豊かな生活を求めて》

自然豊かな住み良いまちづくり

第7支会 支会長 井上忠男 595 世帯

第7支会は、成木1丁目から8丁目の自治会で組織し、自然豊かな住み良いまちづくりを目指して、日頃から様々な社会活動を行っています。

また、各自治会でも盆踊り・各種レクリエーションをはじめ独自の地域交流活動を行っています。

今回は、第7支会で行っている活動のうち、いくつかをご紹介します。

東京ヒルクライム NARIKI ステージ



成木地区は、山や川などの自然が非常に豊かです。

その豊かな自然環境を利用して、平成19年から青梅市成木7丁目にある常盤林道を使った「東京ヒルクライム NARIKI ステージ（自転車競技）」を誘致して、青梅市北部の成木地区の活性化につなげてく活動をしています。各自治会を中心とした「ヒルクライム実行委員会」を組織し、運営にあたっています。

芸術の秋！成木地区文化祭

文化祭の運営は第7支会の下部組織である「文化祭実行委員会」が中心となっていて行われています。

文化祭は楽しさが感じられる地域交流行事であり、参加する方にとっては文化祭の成功という目的のために、仲間とコミュニケーションをはかることもでき、達成感の強い行事で、同時に文化祭には、成木地区の地域社会相互の結びつきを深め、人々の豊かな生活に貢献するという意味合いもあります。



地域の結びつきの大切さ

高齢化社会を迎え、さらに震災や異常気象による災害を見ても、隣近所の助け合いが非常に重要になってきています。地域に根ざした活動として、まずは仲間作り、そして地域の結びつきを緊密にすることが、自然豊かな住み良いまちづくりにつながっていくと考えています。

安心・支え合いのネットワーク

－災害時要援護者マップ作成と防災ボランティア－

自治会長 内野喜生 世帯数 400 世帯

【地域で生きる】という意識

東青梅五丁目自治会では、大規模災害発生時には地域が主体となって初動対応をしなければならないという課題認識のもと、平成21年「東五防災ボランティア」を組織化しました。防災をキーワードに地域住民同士の交流を促進し、「地域で生きる」という意識を強く持って地域力の向上を目指しています。現在ボランティアには、中学生・高校生を含む約200名が登録しています。



【防災ボランティア訓練】の実施

防災ボランティア訓練では、災害時要援護者マップをもとに、防災ボランティアが要援護者を自宅まで訪問し、安否確認、避難誘導等を行います。その後避難場所にて、炊き出し訓練で作った食事を一緒に食べ、懇親を深めます。

その他にも、消防署・地元消防団の協力で、消火訓練、子ども会会員が地域内に設置された消化器等の位置を確認する「防災スタンプラリー」など、多様なメニューがあり、毎年200名以上が参加する大規模な訓練となっています。



【災害時要援護者マップ】の作成

自治会では、地域内の65歳以上の会員を網羅したマップを作成しています。マップには、世帯の状況を色分けして示し、迅速に安否確認、避難誘導ができるよう工夫をし、毎年、防災ボランティア訓練を実施しています。

東青梅五丁目自治会の想い ～自治会加入率向上を目指して～

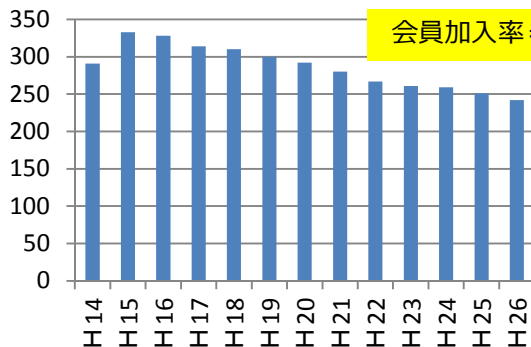
各種イベントやスポーツ行事を通して、子どもからお年寄りまで、みんなが楽しく笑顔あふれるそんな地域にしたいと、世代間の交流を常に意識し活動しています。「防災」をキーワードに自治会員を増やし、地域に「安心」と「支え合い」が広がることを願っています。

自治会運営から見えてきたこと！

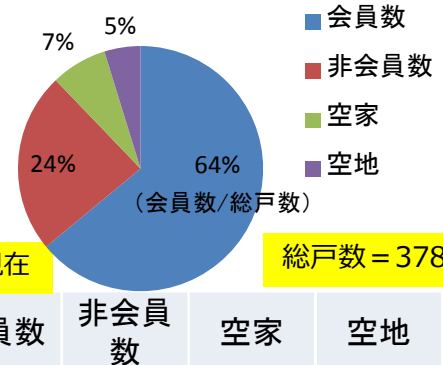
多摩団地自治会

自治会長 田中 晴雄 会員世帯数

251(H26.4.1)



H26.8.30現在



総戸数 = 378

会員数の過疎化が止まらない！・・・せめて、退会防止策として！

当自治会は、少子高齢化が更に加速！二人暮らしから一人暮らしが急増！転居に伴う空家の増加！
対策＝非会員の再加入へのアプローチ・空き家等再入居者へのアプローチ・究極は両団地の合併！

防止策1) 町内の防災力認識UP作戦！・避難場所を共有しよう！



テーマ=避難所運営の手順と方法



◆地域防災学習交流会
一時避難場所は、
(頂上グラウンド)
だ！
共通認識が図れた・・・
避難場所は第四小学校

非会員にも参加を呼び掛けます！

消火栓から初の放水！
防災放水訓練の実施
◆消火栓用器具格納箱の
ホースを使った訓練
市の防災課・青梅消防署
の指導のもと実施。
◆団地内12組に設置
体験希望要請から
H25.9.8/H26.3.9に
一時避難場所でも実施



消火栓器具箱新設＝初放水訓練



防止策2) 子供達の安全の為に、地域の安全を守る会の頑張りに期待！



見守り隊は、3ヶ所にて実施！

◆名称『児童・生徒通学路見守り隊』26名と保護者による月曜日から金曜日の毎朝、第四小学校・吹中の生徒・児童の通学路見守りを実施。
当団地は坂道の為、中学生は自転車通学時、乗らずに押して降るのがルールです！



ここから自転車に乗り、左側走行！

防止策3) 回覧用・自治会だよりの効果は！

広報委員3名、役員からの写真提供を受け、毎月25日発行を目標行事を追いかけ、行事に追われる日々だ。

- ◆反響＝防災情報・・・大雪災害カーポート倒壊が判明(32軒)
土砂災害警戒情報・避難準備情報発令・・・土砂災害発生した！
- ◆役員提案＝資源回収実績および報償金掲載と今後の予定！
- ◆貢献度＝記録に残り、総会議案書の作成に重宝です！
- ◆空家・新築入居時、自治会入会活動の紹介資料に添付・・・



安心支え合いネットワーク事業

第九支会長 櫻井義久

世帯数 1,753世帯

「救急医療情報キット」と 防災連絡カード」を配布

自治会会員の要望などをふまえて、救急医療活動の一助と災害時の家族の連携、さらに、会員相互の連携（絆）の形成をめざして、平成25年度に「第九支会・安心支え合いネットワーク事業」を実施しました。

この事業の一環として、高齢者世帯調査の実施とともに、「救急医療情報キット」および「防災連絡カード」を自治会役員が全会員世帯に配布しました。

この活動を通して、自治会会員の支え合い意識と連帯感の向上、自治会加入促進の取り組みにつなげます。「東京都地域の底力再生事業助成」対象事業。

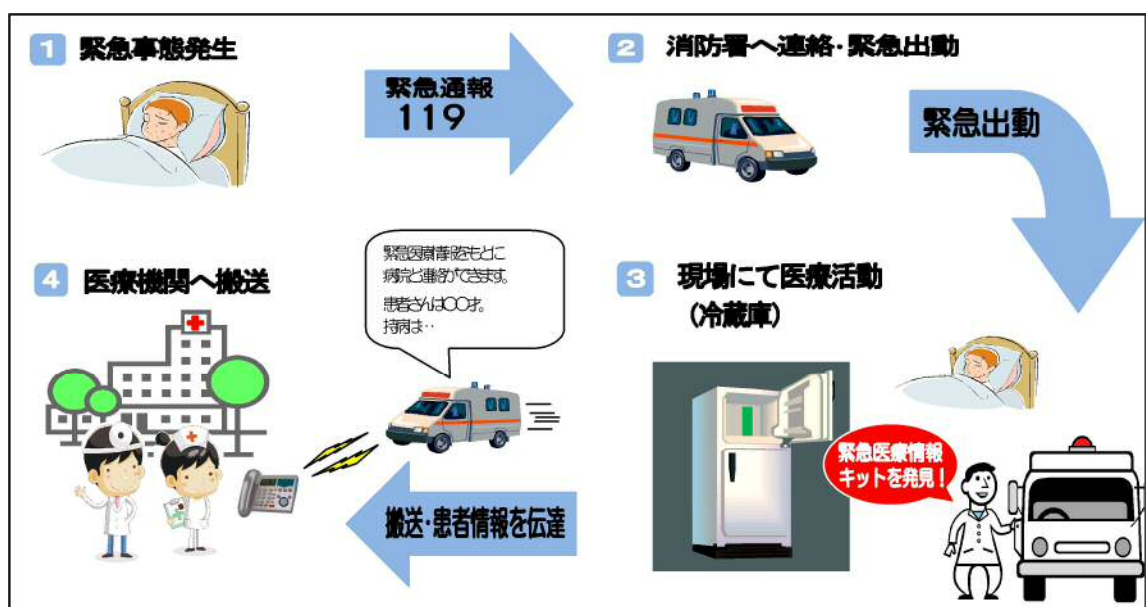
家族の連携と 会員相互の連携（絆）

第九支会では、高齢者等を対象とした青梅市災害時要援護者支援事業を市と連携して実施しています。

新町地区では、現在、164人の方が災害時要援護者の登録をしており、平成24年度は、自治会役員と民生・児童委員が協力して、登録者の世帯を訪問し、状況把握を行いました。その訪問の際に、青梅市の救急医療情報キットを配布し、大変好評でした。この活動を通して、多くの自治会会員から、救急医療情報キットの配布の要望が出されました。

第九支会の区域内には、高齢者が多く居住していますが、自立して生活している方や家族での援助が可能な方などは、災害時要援護者に登録していない状況です。また、急病の発症と救急対応については、高齢者だけでなく、誰もが不安を持っています。

こうした自治会会員の要望をふまえて、救急医療活動の一助と災害時の家族の連携、さらに、会員相互の連携（絆）の形成をめざして、安心支え合いネットワーク事業を実施しました。



新町一丁目だより

自治会長 山岡正和

世帯数 302世帯

納涼バーベ

平成26年8月16日（土）、恒例の「納涼バーベキューの集い」を開催

当日は雨の心配をしましたが、幸いなことに開会時には止み、屋内と屋外テントとそれぞれくつろぐ姿が見られました。竹内青梅市長にはご多忙ななか来訪・ご挨拶を頂きました。松永文男氏の演奏も屋外ステージで行われ、松本義一氏提供巨人軍グッズの特別企画は盛り上がりしました。

調理、盛付、花、接待そして片付け等ご協力頂いた皆様に感謝申し上げます。



雨対策用に藤棚にシート掛け。役立ちました。



竹内青梅市長来訪・ご挨拶。ご多忙ななか有難うございました。



井上信治衆議院議員秘書からご挨拶頂きました。



会館出入口の様子と花掛け



熱演の松永文男様。有難うございました。



第九支会役員他多数の来賓に来て頂き、交流を深めました。来訪感謝申し上げます。

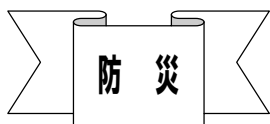
熱くて大変だったのは焼き方の体育部と盛付役の婦人部の皆さんでした。



談笑される嶋田和夫様、嶋田一郎様、



山下英夫様ご挨拶頂きました。有難うございます。



第九支会 末広二丁目自治会

自主防災委員会の活動

自治会長 高木 博康

世帯数 62世帯



防災委員会（支部）の発足

平成23年の東日本大震災を機に、末広町二丁目自治会では、組織的に行動し町内住民を守ることを目的に、現行の防災対策を町内実情に沿った内容に見直していきたいと考えました。

自治会の防災対策は自治会会員だけに向けられていては地域を守ることになりません。全住民を対象に対策を実施して、初めてその力が発揮されと考えます。

これらのことから、自治会内に末広町二丁目自主防災委員会を発足し活動を開始いたしました。（平成23年 9月 3日 発足）

末広町二丁目自治会の構成

平成26年度 自治会世帯数 62世帯
非自治会世帯数 約320世帯
合計世帯数 約382世帯

活 動 内 容

① 毎月一回、防犯パトロール後に自主防災委員会を実施。

防犯、防災に対する情報の共有を計るため毎月必ず実施します。

② 末広町二丁目・自主防災委員会だよりの発行、配布。

不定期だが、自治会の情報を皆さんに対し全戸配布します。

③ 年一回、住民票カードの作成。

住民票カード作成の協力を呼び掛け情報が古くならないように毎年更新します。（平成25年11月現在 147世帯387名を把握）

④ 近隣企業、地主さんなどとコミュニケーションを取り協力を呼び掛ける。

東芝、そうしん、畑の地主さんなどに協力をお願いし有事の際の対応を考えておく。

今 後 の 課 題

① 行政、支会との連携をはかり、より実情に沿った活動をする。

② 防災活動を風化させることなく、全住民の皆さんに情報を出し、協力いただける方を増やしていく。

自治会を縮小させないためには、自治会が何をしているのかを理解していただき協力する方を増やすことであります。これらの課題への取り組みは、自治会会員に一層の負担となるが、自らの町内を自ら守るために実施しなければならないと考えます。

新町 7・8・9 丁目自治会のサークル活動と地域の連携

新町 7・8・9 丁目自治会

新町 7・8・9 丁目自治会では住み良い街づくりと地域のネットワーク作りとして様々な活動を行っています。

自治会の正式組織としては他の自治会とほぼ同じく四役（会長、会計、書記・広報等）と専門部（体育部、女性部、子供会等）があり、青梅市自治会連合会、あるいは第九支会の方針に沿った活動と当自治会独自の活動（新町 7・8・9 丁目自治会盆踊り大会等）を組織的に進めています。

これとは別に自治会員有志が自主的に進めているサークル（同好会）活動が数多くあります。大きく分けると運動系、健康系、文科系といったところでしょうか。

運動系の代表はソフトボール部で毎年の第九支会内の大会では大活躍です。そして第八ゴルフ会は開催回数が 100 回を超えています。

健康系は太極拳、自彊術、セラバンド、グラウンドゴルフ、ラジオ体操等があります。

そして文科系は和服リフォーム、そば打ち等がありますが、今年度中に囲碁、将棋等のサークルも立ち上げることを考えています。

これらのサークルは 1 人が複数のサークル活動を楽しむ事により、住みよい楽しい街づくりのコミュニティとして自然に人と人との和・地域の輪の醸成につながっております。そしてこのサークル活動を更に盛んにすることにより自治会員加入者を増やし、また退会者を減らすことにつながれば更に地域の輪が広がり災害発生時等にも大きな力になると考えています。

自治会組織の正式組織とは別に自治会活動を側面から支援してくれるインフォーマルグループとして「新町八の会」の存在があります。このグループに関しては機会があれば改めて紹介したいと思いますが、簡単に言うと役員 OB 有志の集まりで既に 13 年間も活動を行ってきており、前述のいろんなサークルの立ち上げにも関わってきております。

3 年前に新田山公園の調整池跡地に多目的広場が作られました。このときにも新町八の会が中心になって有効利用を考え前述のグラウンドゴルフとラジオ体操の会を立ち上げました。この 2 つのサークル活動について少し紹介いたします。

グラウンドゴルフは原則毎月 2 回（第 2、4 土曜日）の練習会、そして年 2 回の競技会を行っており、現在の登録者数は 80 人程度で毎回の参加者は 30 人程度で主として年齢 60 歳以上の男女が身体を動かしながら和気あいあいとコミュニケーションをはかりつつプレーを楽しんでいます。

ラジオ体操は毎朝 6:30 から雨の日を除き毎日実施しています。ここには子供から高齢者まで多数の人が参加して健康作りに励んでいます。特にこの夏休み期間は子供も多く参加し 6,70 人も集まる時もありました。そして子供たちには夏休み終了日に「頑張ったで賞」を渡すイベントも行いました。体操の後は公園の周りをウォーキングやジョギングをする人たちもおり更なる健康作りに励んでいます。

繰り返しになりますが、昨今は高齢化社会の進行など他人事では済まされない状況に隣近所の助け合いが非常に大事になってきております。地域に根ざした活動としてまずは仲間作り、そして楽しい生活の一つとしてこの様なサークル活動仲間やコミュニティがいざと云う時に有効に生かされると確信しています。まさにこれが住み良い街づくりと地域のネットワーク作りの一歩だと考えます。



新田山公園多目的広場でのグラウンドゴルフ練習



新田山公園多目的広場でのラジオ体操

《地域の安心・安全を求めて》

地域の結びつきで築く私たちの街づくり

第10支会 支会長 吉田和俊 2,698世帯



第10支会とは

第10支会は、河辺町1丁目から10丁目の各町および地区内のマンション自治会を合わせて13の単位自治会で組織し、安心安全なまちづくりを目指し、日頃から様々な社会活動を行っています。

また、各単位自治会でも盆踊り・各種レクリエーションをはじめ独自の地域交流活動を行っています。

今回は、第10支会で行っている活動のうち、いくつかをご紹介します。

安心・安全パトロール

河辺地区では、ゲームセンターをはじめとする娯楽施設など集客施設が多く集まり犯罪への誘惑も多い地域です。

このため、各自治会・学校・PTA・子供会育成会・民生児童委員や保護司など、地域で活動するあらゆる人達と連携して「河辺地域の安全を守る会」を組織し、合同してパトロールを行うほか、各団体ごと独自に行う定期、不定期のパトロールを通じて地域の安心・安全の確保を図っています。

このほか、地域の各団体・機関と連携して「青少年健全育成連絡協議会」を結成し、青梅警察署とも連携して犯罪から青少年を守る活動を行っています。

健康&レクリエーション

春の花が一斉にほころび始める頃、老若男女うち揃って「歩こう会」を行っています。今年は春の霞丘陵を散策しました。

毎年、各自治会体育委員が10kmを目標にコースを選定し、季節を感じながら散策し、完歩した後は豚汁に舌鼓を打って地域の交流・親睦を図っています。

夏の宵にはファミリーゴルフ大会、秋にはビーチボール大会も行います。



皆さんもぜひ、参加しませんか。

《安心・安全は隣近所の結びつきから》 地域を見直してみませんか・

隣近所のお付き合いは確かに難しいことも多くあります。しかし、東日本大震災や異常気象による過去の多くの災害を見ても、また、高い確率で間近に迫りくる首都直下型地震や立川活断層の活動被害を想定しても、いざという時に頼りになるのはあなたの街の隣近所の結びつきです。

市民ウォーキングの開催

第11支会 支会長 貫井 修一郎

市民ウォーキングで地域を知る

第11支会では、今井市民センターと共催で、毎年1月下旬の日曜日に「市民ウォーキング」を開催しています。

この市民ウォーキングは、地域住民の体力増進と健康の保持、地域の連帯と異年齢層の交流、さらに地域の歴史や自然に触れることを目的に行っています。

毎年、市民センターへ午前8時30分頃に集合し、コースの説明と準備体操ののち、5～7kmのコースを2時間30分ほどウォーキングし、ゴール後に甘酒とコーンスープで疲れを癒します。



霞川を歩く

世代を超えて交流が図れた

「市民ウォーキング」は、毎年テーマを決め、小学校低学年から年配者までが参加できるコースを検討し実施しています。



甘酒、コーンスープで疲れを癒す

このため、地区住民を中心に多くの老若男女に参加をいただき、個々の運動と参加者間の交流が図られるなど好評をいただいています。

また、参加者が自分達の住んでいるまちや自然に触れ合うことにより、地域を知り新たな発見をするなど、貴重な体験の機会にもなっています。

実施状況

《平成24年度》

開催日 平成25年1月27日（日）
コース 霞川沿いの自然観察と散策
参加者 116人

《平成25年度》

開催日 平成26年1月26日（日）
コース 冬の霞丘陵を歩く
参加者 115人

《平成23年度》

開催日 平成24年1月22日（日）
コース 地域の名所旧跡を訪ねる
参加者 85人

今井城の腰自治会餅つき大会

第11支会 今井城の腰自治会
自治会長 藤本正己

今井城の腰自治会では、会員相互の懇親、災害時の炊き出し訓練等を目的として、毎年正月明けの休日に、自治会が主催し、スポーツ浮島会、婦人部、小学校PTA等各団体の協力を得て餅つき大会を実施しています。毎年大いに盛り上がり、今年で37回目を迎えました。

＜平成26年餅つき大会＞

日 時 1月12日(日) 午前9時～

会 場 今井城の腰自治会館

会場では、男性陣は餅つき、豚汁作り、女性陣は、つきあげた餅を、餡、きな粉等のからみ餅作り、各戸配布用(5個ずつ全会員に配布)の大福作りに作業分担し、会員・来賓の来場を待ちます。

9時30分頃から徐々に会員家族、来賓の方々が集まり、絡み餅、豚汁、各種飲料を振舞い、子供達には、ポップコーン綿菓子、パンダ焼きを振舞い、賑やかで和やかな中で会が進行しました。

参加者は、自治会員のみならず、他所で所帯を持つ人が子供連れで参加する姿も散見し約100名を上回り、全て自治会の自力で行うこの行事は今後も継続させて行きたいと考えています。



＜課題＞

当自治会は、会員87世帯(加入率約70%)と小さな自治会です。餅つきを開始した当時は、30～40代の世帯が大半でしたが、世代交代が無い為、現在は高齢世帯の比率が極めて高くなってきています。

このため、この行事は、当初の目的の他に昨年度から高齢化対策も加え実施しています。具体的には、大勢の人達が集まるこの会場で、現在自治会内で活発に活動している趣味サークル(歩こう会・コーラス・ヨガ等)の活動内容をパネルで紹介し、一人でも多くの人達に参加を呼びかけ、より一層の親睦を図ると同時に、高齢者の引きもり防止を図るという狙いです。



発行・お問い合わせ先：青梅市市民部市民活動推進課

〒198-0102 青梅市東青梅 1-11-1

TEL 0428-22-1111

FAX 0428-21-0542

URL <http://www.city.ome.tokyo.jp>

メールアドレス：div1003@city.ome.tokyo.jp

発行日 平成27年3月10日